

NEWS LETTER

■ なんばた グールグル ■

Vol.21

2024.9

7月に新紙幣が発行され、埼玉県出身の渋沢栄一が新1万円札の顔となりました。幕末から明治維新・西洋化へと、激動の時代を牽引した人物ですが、現代もまた多様な変化が進む社会。ユニバーサルデザインや3Dホログラムなど、現代の多様性に考慮した技術が採用されている新紙幣を使ってのお買い物では、話が弾みそうですね。

今月の TOPICS P1: 岡本隆光さん P2: 難波田城公園まつり(農バル出店)

“岡ちゃん”の店

岡本食料品店

岡本隆光さん

おかもと たかみつ



20代の頃は朝霞で焼き肉屋をやっていたのですが、子どもが生まれたのを機に、南畑に住宅を購入し改築して、昭和42年6月に岡本食料品店を開店しました。その後、昭和53年にさらに改築して、現在の広さの店となりました。

総合食料品店として、肉や魚・野菜・果物・飲料・調味料・生花などを取り扱っています。開店当初の頃は、肉は骨付きの枝肉を部位ごとに切り分けて、使いやすいようにスライスして販売していました。現在は揚げ物が好評で、コロッケや白身魚フライなどがありますが、なかでもメンチカツは、開店以来ずっと作り続けています。仕事帰りの人が夕飯用に買っていくこともありますね。季節ものでは、毎年クリスマスシーズンになるとローストチキンを店頭に並べています。

全盛期は仕出し弁当も評判を頂き、職人さんや近くの仕事場の方々にご愛用頂いていました。早朝、市場から帰ったあと、妻と2人で100~200人分用意したこともありました。

もちろんすべて順調という訳でもなく、以前コロッケ用にじゃがいもを大量に仕入れたのですが、あまりに多すぎて傷んでしまい、全部使えなくなってしまいました。苦い失敗ですね。

現在は仕出しをやめ、自分一人のできる範囲でやっています。夕方には子ども達が小銭を握りしめて来て、“じいちゃん”“岡ちゃん”と呼んでくれます。たくさんの1円玉は、計りで数えることもありますよ。子どもたちが、「買ったお菓子や飲み物をすぐに食べたい」と言うときは、店先では危ないので、店の横にイスとテーブルを出すこともあります。

あと3年で開店60周年、私も90歳になります。健康な限り店を続けていきたいですね。

◎8:00~19:30 ㊟無休(正月・不定休あり)

〒富士見市上南畑 74-8 ☎049-251-8105



難波田城公園まつり

農バルプロジェクトで出店しました

農バルプロジェクト事業企画委員会では、南畑地域の農や食・事業所をつないで、活気ある南畑をめざす活動をしています。

今回は南畑を盛り上げる新企画として、「南畑のお米に合う地元の食品をごはんの上のせて食べよう！」という趣旨で、題して『なんばた地元メシ・第1弾』を企画しました。



第1弾では、4年連続特A米を受賞した南畑の「彩のきずな」に、“岡ちゃん”の愛称で呼ばれる岡本食品店のコロッケ&メンチを乗せた、コロッケメンチボウルを販売しました。

炊きたての彩のきずなに食欲をそそるカレーコロッケとメンチをのせ、ソースをかけてから紅生姜とパセリをトッピング。

当日は販売予定数をすべて完売し、「おいしかった」「岡ちゃんのお店に行ってみよう」などご好評をいただきました。

『なんばた地元メシ・第2弾』はどこのお店とコラボなのか?ぜひご期待ください。



■ なんばた グールグル掲載希望者募集 ■ 掲載料は無料です
 ◎農業 ◎商業 ◎工業 個人事業主 OK!
 EX)飲食店、食品販売店、農産物直売所、観光農園、園芸店、工芸店、薬局、建築関係
 自動車整備関係、理容院・美容院、コンビニエンスストアなど

■ 南畑地域まちづくり協議会とは…? ■

地域の少子化を危惧し、南畑住民有志が中心となって、平成21年に発足しました。豊かな農地を残しつつ、住民が安心して住み続けられるまちづくりを目指しています。様々なまちづくり活動を展開していくことで、住みよい地域を自分たちの手で形成していきます。

■ 農バルプロジェクトとは…? ■

南畑地域の活気と賑わいを作り出すため、南畑地域の食と農を中心とした事業者のネットワークをつくり、農業・商業等の活性化を図るとともに、地域の特色を楽しみながら、地域内外の市民に南畑の魅力を知ってもらおうという新しいプロジェクトです。

農バルとは、南畑の特徴である『農ある暮らし』と『バル(人々が集う場所)』をイメージしたものです。

